

外国人避暑地だった

ここに一枚の写真がある。天幕の下で食事を楽しむ外国人たち。優雅な午後のひとときが切り取られ、まるでルノワールの絵画のようだ。ヨーロッパの風情漂うこの写真は、なんと雲仙の白雲の池で撮影されたもの。かつて雲仙は外国人たちの笑顔であふれていた。

島原半島の中央に位置する雲仙の名が海外に広まったのは、シーボルトが著書『日本』で「FUNZEN・TAKE」ヨーロッパで紹介したのがきっかけ。明治十年頃には、避暑地として多くの外国人が訪れるようになっていた。大正に入り、長崎と上海を結ぶ日華連絡船が就航すると、その数はさらに増加。最盛期には年間のべ三万人もの避暑客が訪れ、そのブームは昭和初期まで続いた。多くの外国人にとって雲仙でひと夏を過ごすことは、ステータスになっていたようだ。

当時、雲仙を訪れた外国人は皆「セレブ」ばかり。彼らはゴルフや山の散策で汗を流すと、ホテルでシャワーを浴びて、美味しいラ



白雲の池での天幕レストラン。
一行の楽しそうな表情が印象的だ。
(一社)雲仙観光局蔵

雲仙

ンチを楽しんだ。午後からは昼寝や読書をし、夜はドレスアップしてディナータイム。そして一日の最後はダンスパーティーで締めくくる。彼らの一日は、大人が憧れる夏休みそのものだ。

雲仙には、大人の遊び場がたくさんあった。明治四十四年に日本初の県立温泉公園に指定され、大正二年には県営のゴルフ場とテニスコートが開設されている。また白雲の池のほとりにそびえ立つ絹笠山でセレブたちは馬に乗り、羊を追いかけて楽しんでいったという。当時の写真には乗馬や登山に興じ、浴衣を着てダンスを楽しむ彼らの姿が写っており、夏を満喫している笑顔にあふれている。

こうした歴史から雲仙には旅館だけでなく洋式のホテルもあり、洋食メニューが充実している。セレブたちはシェフを伴って訪れることもあったというから、当時の料理人たちはそのシェフに洋食を教わったのかもしれない。

地獄を歩きながら
かつての優雅な
夏休みに思いを馳せる。



オシャレをしてゴルフを楽しむ男性。
(一社)雲仙観光局蔵

